

農学部を卒業後、農業試験場で野菜の栽培を研究していた。

野菜作りのモットーは、

“旬のものを減農薬で栽培すること”

池田市八王寺

池田 廣さん

イケダ ヒロシ

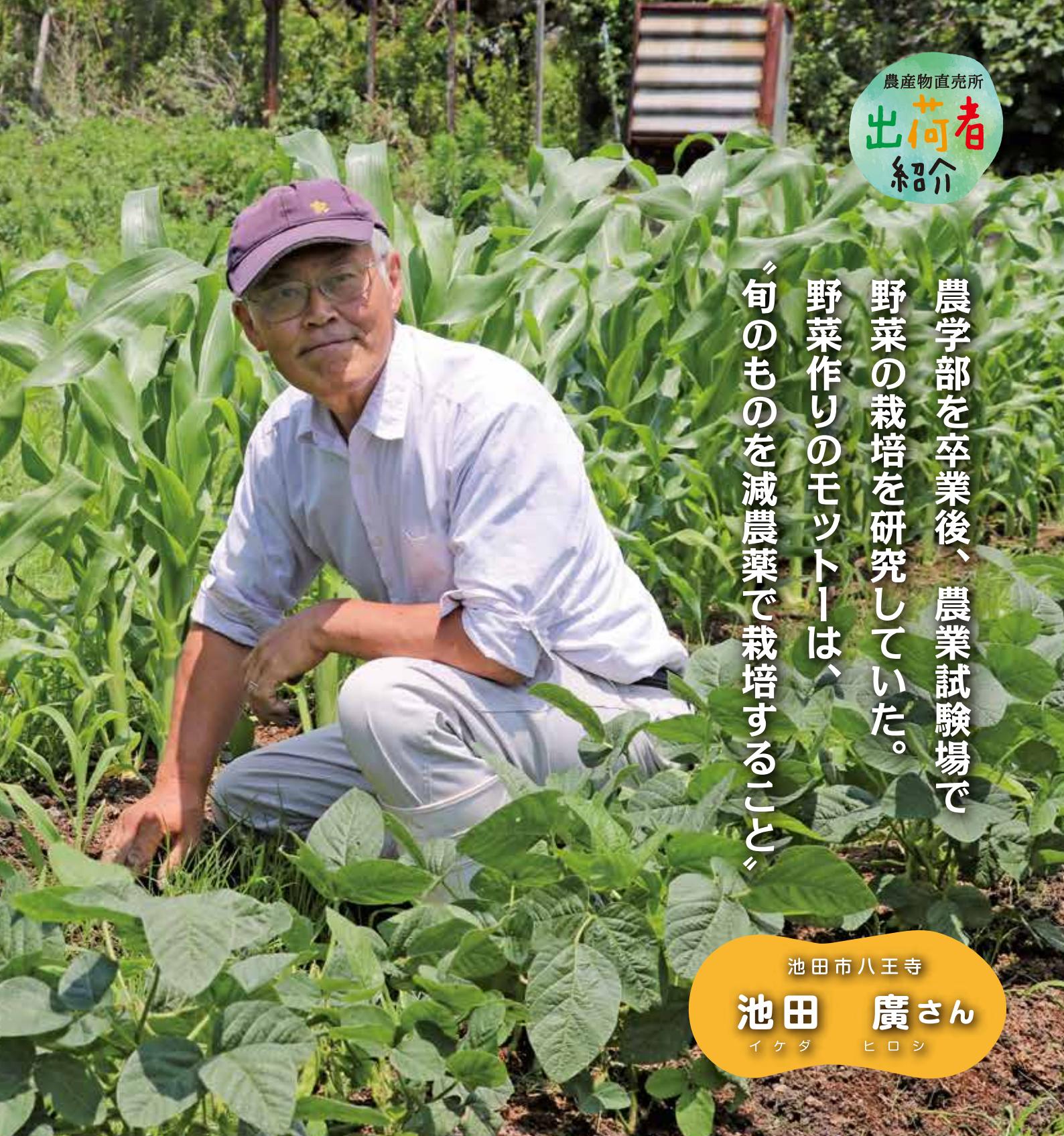
農業についての研究

池田市八王寺の農地で8年前の退職を機に本格的に農業をされ、池田市の農業委員も務める池田さん。大学の農学部を卒業後、農業試験場へ就職。

野菜や花の栽培はもちろん、品種育成や病害虫についても研究する施設で約35年間野菜や花の栽培についての研究をしていた。例えば、肥料の施肥量は経験的に決められているが科学的にみた施肥基準はどれくらいか、施用する肥料成分のアンバランスにより発生する生理障害等を研究。農学部の時から野菜を専攻し、農業試験場ではキュウリやメロン、キク等の研究を主にしていた。

農業とは何ですか。

「学生時代のある恩師が言わされた言葉ですが、農学は医学と同じ。医学は人を助けるため、農学は安心できる食料を皆さんに供給して人々の健康を支えるため。どちらも、基礎科学ではなく応用科学であるといふ言葉が印象的ですね。」と話された池田さんに農業を大学で学び農業試験場で研究され





ていたなんてエキスパートですねと言うと、「いやいや、そんなことはないですよ。学問と実際の農業は違います。だから、大学の先生でも理論はすごいけど、実際に野菜を作つたら下手な方もいたりしますよ。やっぱり、実際に毎日土を触つて農業をしている人の方が農業について強い場合の方が多いですよ。」と笑顔で話してくださいました。

野菜作りのモットー

「旬のものを減農薬（低農薬）で栽培すること！」

野菜の病気を防ぐ殺菌剤や害虫駆除のために使う殺虫剤や草を枯らす除草剤などは極力使わるのが池田さんの栽培方法だ。それは、農薬たっぷりで見てくれるの良い野菜より、安全・安心な野菜が食べたいという理由。

また、牛糞堆肥を宝塚の牧場まで買い付けに行き畑の土の土壤改良資材として撒くが、そ

「農業の喜びは良い野菜が収穫出来た時で、旬のものは美味しい栄養も豊富な野菜を作る事で季節感も味わえるので、身体が動く間は野菜の栽培がしたい。」と話された池田さん。

8月には広大な畑で育つたスイートコーン、枝豆、オクラ、バジル、ミニトマト、ゴーヤなどが出荷されます。これからも、美味しい、安全・安心な新鮮野菜を作つてもらいたいですね。

他の有機質の肥料は極力使わない。

「有機質の肥料であっても、実際に植物に吸収される時は無機質（イオンの形）に分解され吸収されます。また、分解の際に有害ではないですが、ガス（二酸化窒素等）が放出します。有機質を大量に撒くと少なからず大気汚染につながると思います。化学肥料（化成肥料）は野菜の生長を助けるもので、適切なやり方をすれば、ガスが大気中に大量に出ることはないとされています。だから、案外いい物だと思います。もちろんやりすぎると、枯れてしまう等はあります」と話してくださいました。

市は都市近郊の農業でフードマイレージが少ないから、新鮮な野菜が食べられるのが魅力だと思います。だからこそ農産物直売所で野菜を購入したら、なるべく新鮮な状態で食べてもらいたいですね。」と話してくださいました。

「有機質の肥料であっても、実際に植物に吸収される時は無機質（イオンの形）に分解され吸収されます。また、分解の際に有害ではないですが、ガス（二酸化窒素等）が放出します。有機質を大量に撒くと少なからず大気汚染につながると思います。化学肥料（化成肥料）は野菜の生長を助けるもので、適切なやり方をすれば、ガスが大気中に大量に出ることはないとされています。だから、案外いい物だと思います。もちろんやりすぎると、枯れてしまう等はあります」と話してくださいました。